

平和啓発事業

【支援金確定額：62,478円 支援率：50%】

取材日：平成23年（2011年）8月20日

■どのような活動をされていますか？

ヒロシマで被爆した人が描き残した原爆の絵。今もその切実な叫びが伝わってきます。当団体の村松代表の努力により、1985年全国で初めて広島平和記念資料館所蔵の原爆の絵が一般の市民に貸し出されました。その後、今日まで26年継続して原爆の絵展・平和のつどいを船橋市内の公民館等で開催、展示しています。

これらの絵は被爆者の生の声が感じられ、見るだけで解説が不要なほど表現力に富んでおり、平和の願いを市民に語りかける最良の方法であると考えます。

各地区の会員の工夫により絵の展示会に加えて紙芝居、折鶴教室、平和に関する映画の上映なども手がけております。平和記念資料館には原爆の絵が2,225点保管され、当団体は毎年その内30点ずつを借用し展示することにより、毎年新しい被爆当時の生の声を伝えています。会員は協力会員も含めて130名です。

■支援金をどのように活用されますか？

広島平和記念資料館から原爆の絵30点を借用し、平成23年7月から8月にかけて市役所1階ロビー、勤労市民センターギャラリー、三山市民センターギャラリー、二和公民館、高根台公民館で開催、展示します。それぞれの会場の使用料、設営装飾費、チラシの印刷、関係資料借用搬送費などに活用しています。

■今後の活動の抱負を教えてください

被爆者が描いた原爆の絵展は当団体の独自のもので、市民や被爆者から高い評価を得ています。今後も、現在の原爆の絵展を継続して開催したいと考えています。進め方も従来同様、各地区の会員の自由な活動を重視していく方針です。また、中学生などには、展示の手伝いなどを通じ、身近な出来事として心に刻んでもらいたいため、教育現場への働きかけを続けます。

原爆の絵展を通して平和の願いを小・中学生たちにも語りかけ、次世代に伝えることにより豊かな社会を実現し、平和を尊重したまちづくりを進めていきたいと考えています。

～取材を終えて～

平和の願いを市民に語りかける。自然に絵を見て、声を聞く。正に表現力十分の原爆の絵でした。平和のうちには生きたいと願う一人一人の思い、戦争のない平和な未来を子どもたちに渡したいという思い、地域のニーズに応じた市民の手作りの平和活動がこの団体の原点であると感じました。その着眼点のすばらしさに驚くと同時に、市民からも高い支持を得ているように思います。



■関わり先（連絡担当者）：事務局 春田 実章（はるた さねあき）

TEL：047-449-2725